

虫歯が原因で 鼻づまりになることが あります。

Q1 鼻づまりはどのような状態ですか？

鼻づまりは鼻の通りが悪くなる事ですが、一般的には副鼻腔炎(蓄膿症)が原因である場合が多いです。副鼻腔は解剖学的には、上顎洞・前頭洞・篩骨洞・蝶形骨洞の空気の入った4つの洞よりなりますが、鼻の穴(鼻腔)を中心にそれぞれが繋がっています。ですから1つの洞が化膿(炎症)すると、他の洞にも化膿(炎症)が広がる可能性があります。この中で一番大きな洞である上顎洞が化膿し拡大すると鼻づまりを自覚し易くなります。

Q2 どうして虫歯があると鼻づまり(上顎洞炎)になるのですか？

上顎の奥歯(小臼歯)大臼歯の歯の根尖部は、解剖学的に上顎洞の底に近接している場合が多く、重度の虫歯になると虫歯菌が根尖に向け進行し、根尖部に虫歯菌が到達し、さらにそこから上顎洞内へと炎症が波及した状態が鼻づまりです。上顎洞は左右一つずつありますが、虫歯による鼻づまりは、通常どちらか一方(片側性)が多くこれを歯性上顎洞炎(歯が原因の蓄膿症)と言い、副鼻腔炎の約10%に認められると言われています。



Q3 治療(歯性上顎洞炎)の場合(は)はどうなりますか？

既にこの段階で重度の虫歯状態(歯の頭の部分:歯冠が崩壊)ですが、頭部レントゲン撮影や歯科用レントゲン撮影によって上顎洞粘膜の肥厚程度が確認できれば、虫歯になった歯の根っこの治療(感染根管処置)で改善する場合もありますが、上顎洞に膿が充満している場合には抜歯の対象になります。

このような場合抜歯した部位(抜歯窩)は、通常根尖部と上顎洞が交通していますので抜歯窩より注射器等で膿を吸引する事ができます。そしてその膿で培養検査が行われれば、検出された膿の原因(細菌)に対し適切な抗生剤を選択する一助になります。

更に抜歯窩より十分な生理食塩水を注入し上顎洞洗浄を行うこともあります。抗生物質の投与と週2〜3回程度の上顎洞洗浄により鼻(鼻腔)より膿交じりの生理食塩水が通常排出され、徐々に膿が少なくなり鼻づまり

Q4 歯性上顎洞炎にならないうちにどうしたらいいですか？

毎日歯を磨き、虫歯を作らないうちにすることが先ず大切です。虫歯は皮膚などの怪我と違って自然治癒は期待できませんので、歯が「凍みる」「痛い」などの症状がある場合は躊躇なく歯科を受診・治療してください。初期虫歯であれば歯性上顎洞炎にはなりません。

尚、虫歯もないのに片側性に鼻づまりがある場合は、腫瘍性疾患の場合もありますのでご注意ください。

今月の先生

岐阜市民病院 歯科・口腔外科

兵東 巖

○専門分野

口腔腫瘍(舌、口底、歯肉に発生した腫瘍に対する手術療法及び化学療法)、舌痛症(漢方薬<保険薬価基準収載方剤>による内服治療)

○役職

歯科口腔外科部長
歯科部長
口腔ケアセンター長

○主な資格、認定

(財)日本口腔外科学会専門医および指導医

日本がん治療認定医機構暫定教育医(歯科口腔外科)

日本がん治療認定医機構がん治療認定医(歯科口腔外科)

○卒業年、主な職歴

昭和60年愛知学院大学歯学部卒
岐阜大学医学部附属病院入局
岐阜大学医学部附属病院歯科口腔外科併任講師
平成14年~岐阜大学口腔病態学非常勤講師

